

# 行政視察報告書

この度、静岡県藤枝市及び浜松市を視察した結果について、別紙のとおりご報告いたします。

資料その他については、事務局に保管してありますので、ご高覧ください。

平成25年5月17日

## 厚生常任委員会

委員長	阿部 正夫
副委員長	土田百合子
委員	立身万千子
委員	佐藤 忠久
委員	高橋 聖悟
委員	佐々木喜一

横手市議会議長 佐藤 清春 様

# 平成 25 年度 厚生常任委員会行政視察報告

平成 25 年 4 月 17 日（水）～19 日（金）

## 【静岡県藤枝市】

面積 194.03 ㎢、人口約 14 万 6 千人。静岡県のほぼ中央に位置し、人口・世帯数は年々増加している。藤枝の地名は、一説には、「後三年の役」のため奥州に向かった源義家が、同地を通過した時に詠んだ和歌に由来するとされている。

## 視察項目：めざそう！「健康・予防日本一」ふじえだプロジェクトについて

藤枝市は「健康」「教育」「環境」「危機管理（交通安全）」の頭文字をとった「4つのK日本一」をめざして具体的な指標を設定し、まちづくりに取り組んでいる。そのなかのひとつであり、今回の視察項目とした「めざそう！『健康・予防日本一』ふじえだプロジェクト」は、先般、厚生労働省が生活習慣病予防の啓発活動の奨励、普及を図るために創設した「第1回健康寿命をのばそう！アワード」の自治体部門で、本市の「健康の駅」事業ほか3事業とともに厚生労働省健康局長優良賞を受賞している。

藤枝市は従来から健康面の施策に力を入れていた。これを発展させ、楽しみながら健康づくりに取り組もうと実施されているのが「めざそう！『健康・予防日本一』ふじえだプロジェクト」である。

このプロジェクトは次の3つからなる。

### ●プロジェクト1：歩いて健康・走って健康「バーチャル東海道の旅」

ウォーキングやジョギングの歩数に応じて地図上の東海道を進むもので、日常の運動習慣を楽しみながら目標を持って取り組めるよう支援する施策。東海道のほか全国のさまざまなコースを作成している。

### ●プロジェクト2：ふじえだ健康スポット20選

地域の宝を活かしたまちづくりとして、市内20箇所を健康スポットとして認定。JRの「さわやかウォーキング」の誘致など健康スポットを線で結んだイベントを開催し、健康づくりと賑わいづくりの両面を促進している。観光とは違った視点でのシティプロモーションとなっている。

### ●プロジェクト3：ふじえだ健康マイレージ

健康づくりと地域経済の活性化を結びつけた事業。静岡県のバックアップと店舗等の協力によってサービスが成り立っており、市の財政負担はない。ウェブによる参加も可能で、若い世代への健康づくりの普及にも力を入れている。

本事業の立ち上げには、協働・連携を基盤として、市長部局、教育委員会、病院など市役所内のさまざまな部署の職員から成るプロジェクトチームで検討した。健康部門だけで考えても知恵は生まれなし、事業は動かないとの理由のようだ。事業を検討、実施するうえでさまざまな分野の協力は不可欠である。

藤枝市には地域ごとに約1,000人の保健委員がおり、健康づくり事業に関わっている。これには自治会長も加わっており、自治会活動と保健委員活動が密接に関わりあっている。保健委員制

度は昭和 30 年代からの歴史があり、自治会の役員と健康づくり事業への関与はセットであるという意識が定着している。また医師会の協力も大きい。ピロリ菌リスク検診などは医師会からの提案である。健康診断をはじめとした健康に対する取り組みに対して医師会の強力なバックアップがある。市民、市役所、医師会の健康に関する連携、協力体制が整っているようである。

介護予防は短期的な高齢者に対するアプローチと、30 年、40 年後を見据え若い世代からの生活習慣病予防が介護予防につながるという長期的な視点の両面から実施されている。ウェブ版健康マイレージは日々の健康的生活を習慣づけるため、長期的な視点に立ったシステムであり、若い世代の取り込みも狙いである。目的は健康だが、ポイントのお得感という切り口から興味を持ってもらう工夫がされている。

健康マイレージは平成 24 年 10 月 1 日から実施しているが、平成 25 年度は登録者数 3,000 人を目指している。紙版だと参加者数が把握しにくい、ウェブ版であれば容易に把握できる。健康行動を 4 週間続ければ協力店からのサービスを受けられるカードがもらえる。現在のところ 250 人くらいで、目標値の 10 分の 1 程度となっているようだが、平成 25 年度は協力店舗を 100 店舗に増やすことや参加者数の増大を目指して取り組んでいるとのことだった。

静岡県には子育て応援制度があり、子どものいる家庭にカードを配りさまざまな支援をしている。その健康版が藤枝市の制度であり、店舗への説明や協力をお願いしやすいという状況がある。市は県の協力を受けながら事業を展開し、また県も藤枝市のモデルを全県に広げたいという構想を持っているようだ。体験者が事業を紹介する口コミの広がりにも期待している。協力店のメリットは、事業のページから店舗のホームページが見られるようリンクしており、店舗の宣伝につながっていることである。参加者を年代別に見れば、紙版は 60 代以上が約 6 割を占めているが、ウェブ版は 30 代、40 代の方が増えている。ウェブの活用は若い世代に受け入れられやすく、健康への取り組みと店舗の宣伝がマッチングした事業となっている。また、システムにかかる経費は保守料程度とのことである。

今回視察した藤枝市の取り組みは「健康・予防」の意識付けに主眼をおいており、健康行動、運動の習慣化のきっかけを提供していると言える。説明者は、課題として、現在のところ評価の視点が気運、参加者数、参加者の満足度などが中心となっており、科学的根拠に基づいたデータ分析や医療費の削減等、定量的な評価が困難であることを挙げていた。しかし、これらは継続することにより、今後、効果が期待されるであろう。



## 【静岡県浜松市】

面積 1,558.04 km<sup>2</sup>、人口約 81 万 3 千人。古くから城下町、宿場町として栄える。近代は自動車、オートバイ、楽器、繊維、光電子分野などの関連産業が集積。平成 8 年に中核市へ移行。平成 17 年 7 月には 12 市町村が合併し、新「浜松市」が誕生。平成 19 年 4 月 1 日に政令指定都市に移行した。

### 視察項目：子育て情報センターについて

子育て情報センターは、区画整理事業の中で、区域内にあった保育園の移転改築と合わせて整備された。センターは、子育てに関する情報提供を行う拠点として市民の子育てを支援し、安心して子育てができるまちの実現を目指している。事業として、ウェブサイトの運営、子育て教室の開催や子育てサークルの活動支援などを行っている。平成 17 年度に開設し、平成 21 年度からは NPO 法人による指定管理に移行している。

前述のとおり、浜松市はさまざまな産業が集積していることもあり、転入者が多いことも特徴である。新たな場所で生活する市民にとって、情報の入手は非常に重要なことである。しかし行政からの情報発信は各担当部署からの一方的かつ断片的なものが多く、必要とする情報にたどり着くまで時間がかかったり、無かったりする場合もある。指定管理者である NPO 法人の代表者が浜松市に転入した当時も、ほとんど情報がなく、公民館などに行かなければ情報が得られない状況だったようだ。はじめて子育てをする人にとって情報がどこにあるのか不安である。このような状況を改善するため、市民協働による子育て情報サイトを立ち上げた。

サイトはシステムの構築以外、イラストも含めほとんどを NPO で作成している。スタッフには子育て中の在宅スタッフもいて、技術を有している主婦など市民の力も活用している。

ウェブサイトによる情報発信で最も重要なことは、求める情報を見つけられることである。情報は市民のニーズに合っていないなければならない。ひとつの例として、「お出かけスポット」のブログを挙げていた。子どもと一緒に楽しめる施設や公園、イベントなどを紹介するページである。市のサイトであれば市の管轄以外のものは掲載しにくい面もあるだろうが、市民にとって市、県、民間などといった区分は関係ない。当事者のいろいろな目線で掲載されているためアクセス数が急増しているという。行政とは少し距離をおいた民間視点の運営は情報発信の自由度が増大する利点があるようだ。必要な情報は必要なときにどんどん提供していく。そのなかで、それを受けとる側が選択できるようにしてあげることが大事とのことである。

情報のチェックは行政情報も含めて NPO、行政がお互いに行っている。市民からすれば行政用語に違和感を覚えることもある。そのような時は行政からもらった情報をそのまま発信するのではなく、その中身を解説するなど理解してもらえる工夫をしている。お互いが自由に意見を言い合える関係が構築されている。

市民にとってウェブによる情報入手は有効な手段である。横手市でも平成 25 年 4 月から子育て情報サイトが開設されたが、この手段を使ってどのように横手市の子育てを充実させていくかが今後の課題である。不足している情報に気づくことが必要であり、この点においても市民の協力は欠かせない。浜松市の子育て情報センターでは、行政情報については市から提供を受けたり確認をお願いしたりするが、民間情報については独自のつながりの中で入手している。ネット上で

アンケートを実施したり、同センターから施設や団体等にメールでニュースを配信した際に情報をいただいたりするほか、いろいろな事業や講座を通じて得られる情報もある。立ち上げから 8 年になるが、立ち上げの頃に知り合った方たちの中には子育てにある程度余裕ができ、事業を手伝ってくれるスタッフもいる。継続の大切さがここにある。ミーティングは、スタッフ同士は週一回、また市役所とも密に行っている。在宅スタッフとのコミュニケーションも IT が進化したとはいえ直接のコミュニケーションは大事で、できるだけ顔を合わせて会議をするように心がけている。

民間としては独立採算を図らなければならないところでもあり、雇用を生んで運営している。事業をするにしても過剰なサービスをする必要はない。サービスを受ける受益者も適正な負担が必要である。行政が無料で行うような事業では参加者もそれに携わるスタッフも関心が薄らぎ発展性が期待できない。

横手市にも市民が立ち上げた民間サークルがたくさんある。この市民力は大きなものがあり、事業を市役所主導で実施するのではなく、民間の活動を後押しするようなかたちをとることが大事である。そのことは団体の育成にもつながり、さらに大きな力となっていく。子育てサークルも同じである。人や職場、地域、他のサークルなどのかかわりのなかでよりよい関係が出来上がり、そこで情報交換ができる。情報の入手先が広がることは市民にとって有益なことであり、それを発信へとつなげていければさらによい。行政だけでは解決できない課題に対して市民と一緒に取り組んでいくことが今後ますます求められると思う。

今回視察した浜松市の子育て情報センターの取り組みは、市民協働により子育てを支援する事例としておおいに参考となった。



## まとめ

藤枝市の「健康づくり」はこのたび、わが横手市の「健康の駅」事業とともに厚生労働省に評価され自治体部門の優良賞を受けたことで、ある意味、親近感をもって学ぼうという姿勢で臨むことができた。プロジェクトの様々な項目を学ぶなかで特に注目したことは、市内に約 1,000 人いる保健委員と町内自治会長が連携して活発に動いていること。

さらに関心をもった施策が「健康マイレージ」だった。市の内外から募集した藤枝市の名所 20 選巡りと称し様々な距離をウォーキングしたり、各種健康診断を受けたりし一定のポイントを獲得すれば市内の協力企業から色々な「お得」を手に入れることのできる仕組みだが、若い世代の定住化が進む一助になっており、官民の強い熱意と協力、それに市民のメリットが合わされば、わが横手市でも可能性は広がると感じた。

浜松市の「子育て情報センター」は 2004 年、子育てに関する情報の総合サイトを市民協働で進めたいという当局側の呼びかけに子育て実践中のメンバーのいる NPO 法人が手をあげ事業がスタ

ート。その際、当局側の姿勢として「役所の仕事の肩代わりではなく、対等平等の関係を貫くこと」、NPO側も「自分たちは、ただ役所の筋書きどおりに進めるわけではない」というスタンスを確認したことを学ぶべき姿勢として興味をもって聞いた。立ち上げの際も時間も時間を費やしたことは、子育て世代のニーズの把握、行政の情報収集、民間の情報収集、行政用語などを逐次分かりやすい言葉に直す作業で、行政職員と一丸となって進めてきたことで全国初の画期的なサイトが完成し、以後、静岡県や総務省から数々の賞に輝いているとのこと。2009年からは指定管理者制度が導入され「NPO 法人はままつ 子育てネットワークびっぴ」が運営管理を行っているが、その原田理事長には一昨年来横していただき、子育て支援課や子育てサークルのメンバーに講演をしていただいた。行政と協働を進める中で、入り口は「子育て」でも目指すは「住みやすいまちづくり」だと気づき、「子供を守る防災ワークショップ」や「女性特有がん検診受診率向上プロジェクト」「就労サポート」などに取り組み地域とのつながりの大切さを再認識しているとのこと。

わが横手市でも4月に「子育て情報サイトはぐはぐ」が誕生した。子育て支援課で作成し、子育て総合コーディネーターが管理していくとのことである。「知りたい」「相談したい」「つながりたい」をテーマに、市民同士が交流できるツールとして利活用され、充実した子育てプラス「まちづくり」ができるよう期待するものである。